

第2検討部会 会議録

会議の名称	第8回 第2検討部会
開催日時	平成19年11月12日(月)18時30分から20時30分
開催場所	川口市職員会館 2階 講座室A
出席者	(部会長)平副委員長 (委員)小川委員、永瀬委員、大関委員、立石委員、河合委員、篠田委員、高橋委員、吉田委員
会議内容	今後の部会運営について 市民の現状、市民と議会との関係
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回部会の意見整理 ・ 議員に対する質問内容 ・ 議会の仕組みと委員からの質問内容 ・ 審議の流れ ・ 川口市議会の現状
発言内容	<p>今後の部会運営について (協働についての定義づけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでは議論を重ねながら終わりの段階で協働を定義づけるという流れで部会を進めてきた。しかし他の部会からも意見があったが、もっと早い段階で協働についての定義づけをおこなう必要があるのではないか。 ・ 協働の幅広い定義として、「一緒にやる協働と一緒にやらない協働」、「その場に適した多様な関係」といった意見でまとまってきている。これまでの議論を踏まえながら今後の部会を進めて欲しい。 ・ 議論を重ねていくうちに次第に内容が学問的になってきた。話が難しくなり、議論についていけない時がある。もっと分かりやすい内容で進めて欲しい。もう少し協働について具体的なイメージを持てると、議論に対する理解が深まるように思う。 <p>(次回までの宿題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協働のイメージ、要素について各委員から意見を出してもらおう。 <p>市民の現状、市民と議会との関係</p> <p>1) 議員との質疑応答</p> <p>(国政選挙のような区割り選挙でないことから立候補者の顔が見えない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政令指定市は区ごとに議員が選出される制度となっているのに対して、川口市は一般市のため選挙区が区割りされていない。 ・ 支援者に対して、立候補者が自分自身をどのような人物か分かってもらうような選挙活動が必要だと思っている。

(選挙活動)

- ・選挙活動は1週間という短い期間で行われており、選挙活動では自分の名前や顔が書かれたものを渡すことは出来ない。利用できるポスターや選挙看板、選挙カーなどにも多くの規制を受けており、政策内容を伝える資料のない中で市民に訴えることは難しい状況にあり、選挙制度についても考える必要もある。

(議会、議員の役割について)

- ・議会と議員の役割はほぼ同じものだと考えており、重要な役割は次の3点だと考えている。この3点については、これまでも今後も必要なことだと思っている。

市民の声をどこまで政策に反映させるか

行政の予算、政策のチェック体制

川口市の発展

- ・特にこれからは防犯対策や介護、災害対策について個人情報のあり方を踏まえた具体的な政策をおこなうべきだと考えている。
- ・これまでも今後も必要な役割は、次の2点だと考えている。

市民の声をよく聞く

市民に活動状況を分かりやすく伝えること

これらの2点は全くやってないわけではないが、難しい。

- ・地方分権が進んでいる中、国の主導によって議会のできるものが限られていたこれまでの状況から議員がアイデアを出していかなければならない状況に変わってきている。
- ・外国では議員はボランティアという国もある。この場合、どれだけ議員になりたいと思う人が出てくるかという問題がある。

(市民の声を十分拾い上げているか)

- ・市議会議員1人あたりの有権者数は約1万2千人程度と他の同規模の自治体に比べて多い。現在の40名の議員数では市民の声を十分拾い上げるには少ないと感じている。
- ・戸別訪問や政党、町会などの組織活動を通じた市民相談をおこなうことが重要だと考えている。

(市民の声を議会でどう発言しているか)

- ・市会議員は市民の代表だと認識を強く持っている。この役割を果たさないと議員としての意味がないと思っている。

(議会では何を審議しているのか)

- ・議員による条例制定の例として、議員の定数削減がある。
- ・議員立法については実際におこなった例がないため、今後の課題だと考えている。
- ・1人あたりの質問時間を45分程度と他の自治体に比べても質問時間は多く確保している。

	<p>(議員による政策立案がどのように行われているか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属している政党では 130 もの政策を市長に提案し、行政内部で検討してもらっている。 ・政策を提言してから後に事業として実際におこなわれるかどうかが必要だと考えており、たとえば現状を踏まえて介護の支援体制を具体的に提言している。 ・今後の課題としては、議員自身の能力向上だと思う。 <p>(説明責任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員として必要なことだと考えている。 ・実際に駅前でのチラシ配りや街宣車、定期的なチラシ配布をおこなっている。 <p>(住民投票に対する議員の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば市町村合併の可否などが住民投票の対象と考えられるが、市民が正しい判断をおこなうにあたって、判断材料となる適切な情報を持ってもらうことが必要である。 <p>(議会の効率的な運営について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議では質問内容を事前に行政側に伝える発言通告がおこなわれる。そのことを出来レースと感じる人もいるが、限られた審議の場で効率的な議会運営を行うための方法であり、原稿以外の内容についても必要に応じて質問している。 <p>(審議を分かりやすくする取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議の経過が分かりにくいことは感じている。現在、議会運営委員会の中にある小委員会では審議内容を分かりやすくするためにインターネットでの情報配信やテレビ放送の導入について検討している。 <p>(議会で市民が意見を述べる機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傍聴者に来る人の多くはそこにいる議員、政党の支持者が多い。傍聴者にアンケートなどをとって意見を聞く場があってもいいだろうが、その場合、抽出された意見に偏りが生じかねないことに留意する必要がある。 <p>(政党と議員の関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙時は所属政党との連携があるが、通常は政党色が薄い。普段は地域の声を重視した地域密着型で活動している。 ・議員 1 人あたりの有権者が多く、市民の声を聞くことの難しい川口市では、政党が市全体から市民の声を聞く役割を果たしている。議員と政党の違いは声を聞くことができる市民の多さにある。 <p>(市民等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業との連携活動はほとんどない。川口市ではほとんどが中小企業であることから、中小企業のニーズをしっかりと吸い上げたいと考えており、政策提案のために地元企業との連携は必要だと思っている。しかし当然、地元企業が有利となるような癒着型の連携であってはならない。
--	--

- ・NPO との連携については、今後重要性が増すものと思っている。そういった組織の立ち上げにはアドバイスをおこない、地域活性化につなげていきたい。
 - ・町会については、他の地域に比べて活発なことから連携先として有力だと考えている。総会や運動会など町会のイベントになるべく参加するようにしている。ただし町会に政党色が強まると住民が町会から離れてしまうこともあるため、町会には中立性が求められる。
 - ・市民、行政、各団体との対話を重視している。特に団体は現場で活躍している人の意見を議会で代弁する必要があると感じている。
- (議員と行政の関係)
- ・議員によって行政から入手できる情報に違いがある。それは議員自身の能力によるものであり、結果として多くの情報を得られる議員ほど行政について勉強している。
 - ・議員によって行政の対応が異なることはない。
- (議員数について)
- ・市議会議員一人当たりの有権者数は約 1 万 2 千人程度と他の自治体に比べて非常に多い状況にあることから、40 名の議員数では少ないと感じている。少ない議員数で住民の声をいかに聞くかが課題である。
- (議員に力関係はあるのか)
- ・現在、力関係はないと思う。当選順位などにも影響されることはない。
 - ・市民から要望を受ける場合、内容によって議員の対応が異なることはあると思う。
- (議員の研修制度)
- ・当選した議員に対して、2 通りの研修がおこなわれている。一つは議会事務局が法律などについておこなう研修、もう一つは所属政党が議員に対しておこなう研修である。
- 2) 議員によるこれからの議会のあり方
- ・現在、質問時には市長を背にし、市民側に向かって質問を延べている状況にある。今後は質問の趣旨から考えて、市民を背にして市長側に向かって質問をおこなう対面式の導入が望ましいと考えている。
 - ・時代にあった議会運営が求められていると考えている。議会運営委員会の中にある小委員会では 1 問 1 答制 (現在は議員が質問をすべて読み上げた後、市長らがまとめて答弁する一括質疑方式で分かりづらい) 対面式を検討されている。ほかにも議員が直接災害現場に出向くような現場重視型の特別委員会の動きが出てきている。
 - ・6 月定例会は通常、議案が比較的少ないことから市民の声を聞く場としたどうかと考えている。
 - ・自ら住民の意見を聞いて回るような出前型の議員活動が求められていると思う。

	<p>3) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議員が町会のイベントに参加してもらっても、議会の話を聞く機会が少ない。機関紙の発行や各議員が合同して市民に説明する機会を義務付けてもらおうと、市民としては議会の情報が伝わりやすい。 ・ 複数の議員による議会の説明会があると、議員によって異なる反応も分かるのでそのような機会を設けて欲しい。 ・ 市外で働く人や市外の学校に通っている人は、誰に投票したらいいのか分からないという声を聞く。インターネットを利用して立候補者を調べるようなので、議員もインターネットを有効に活用して欲しい。 ・ 若い人向けのPR活動を考えて欲しい。 ・ 学生にはインターネットで立候補者を調べて、共感した人に投票する傾向がある。一方、活字がメインのインターネットだけで投票する人を決めるのは怖いと感じる面もある。インターネットによる選挙活動はいいことだと思うが、インターネット上でも立候補者自身が意見を述べている動画を見ると立候補者の真剣さを感じる。 ・ インターネット上にある意見が全て正しいというわけではなく、書き方や読む人の捉え方次第で内容が変わってしまうことに注意する必要がある。 ・ インターネットには情報が入手しやすいことで、いい面も悪い面もあるのではないか。 ・ 地域の声を吸い上げる仕組みについて考える必要がある。 ・ 市民の声を吸い上げる仕組みの中で、市民の発言者としての役割を町会関係者に担ってもらってはどうか。 ・ 議会を傍聴したことがあったが、とても静かな印象を受けた。もっと活気があるといい。 <p>次回の議論について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会の現状 ・ 市民と議会との関係 ・ 川口市はどのようなまちを目指すのか（川口市の目指す未来）
次回以降日程	第9回検討部会 11月26日(月)18時30分～ 職員会館2階 講座室A